

編集後記

★ 医療安全活動はすべての医療機関で精力的に行われるようになった。ただ、いまだに医療安全と医事紛争の対策の違いが理解されていないように感じることもある。多少の齟齬を恐れずにいえば、医療安全はこれから行われる医療に対して前向きに考える活動であり、医事紛争対策は起きてしまった不具合に関して後ろ向きに考えることだろう。その意味において両者は互いに連関するとはいえず、医事紛争を予防することが医療安全の主目的になることはない。むしろ医療安全は提供する医療の質に直接的に影響する。私自身、これまで整形外科における医療安全について関わるが多かったが、今回は医事紛争に関して、一つの考え方を述べたいと思う。

★ 最新の裁判統計によれば、令和3年（2021年）に医事関係訴訟が着した件数は850件と、前年よりも200件近く増加した。しかし、訴訟が提起されても、途中で5%が取り下げになり、50%は和解になるので、最終的な判決に至るのは3割程度に過ぎない。判決までいってしまうのは双方の意見に大きな隔りがあるからだが、できればこの手前での解決を図りたい。ちなみに新規に提起された訴訟は758件であり、ピークであった平成16年（2004年）の1,110件より3割減となったが、医療事故が減ったのか、訴訟よりもっと手前で解決に持ち込むことが増えたのかはわからない。

★ 医事紛争は結果に対するものなので、個人的には

ゼロにはできないと考えている。なぜなら、医療行為には一定の確率でミス（回避可能な過失）が発生するし、また、ミスがなくても結果がよくないことは十分に起こりうるからである。整形外科領域の多くの不具合は大事に至ることはないが、時に術前よりも著しく身体機能が低下することがある。こうした場合に大切なことは、医療を提供する側と受ける側が、ともにその不具合に真摯に向き合い、時間をかけて互いにできることを探る姿勢を持つことだと思っている。

★ 結果が悪いと、相手側を非難したくなるのは人間の性である。それが医療者の単純なミスでないとしても、途中のやりとり次第では患者の怒りが誘発される。しかし、起きた結果に対し医療者が素直に悔恨の意を表し、患者に寄り添っていけば、いつしか患者の怒りは軟化する。感情が変化することが人間の人間たる所以であり、時間とともに患者の表面的な怒りは鎮静化する。ところが、患者の怒りに対して医療者が素直に反省の意を表さないとき

には、患者はファイティングポーズをとることになる。医療者も同じようにファイティングポーズをとると医事紛争になる。私自身は、相手にファイティングポーズをとらせないことが重要であり、仮にいったんそうなってもできれば途中で手を下ろしてもらうよう努力すべきと考えている。互いに打ち合えば、ともに傷つく。それが医療訴訟であり判決である。やむをえず継続せざるをえない場合もあるが、訴訟に勝ったとしても気持ちが晴れることはない。

（大川 淳）



Robert Kienböck の母校 Wien 大学

生田義和 画
2023-12

顧問	林 浩一郎	石井 良章	中村 孝志	高岡 邦夫	長野 昭
	四宮 謙一	岩本 幸英	星野 雄一	越智 光夫	遠藤 直人
編集	大川 淳	松田 秀一	竹下 克志	安達 伸生	稲葉 裕
定価 2,860 円 (本体 2,600 円 + 税 10%)	臨床雑誌 整形外科 74 巻・13 号 (12 月号, 第 901 冊)				2023 年 12 月 1 日 発行
	編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目 42-6				小 立 健 太
	印刷所 東京都江東区亀戸七丁目 2-12				三 報 社 印 刷 株 式 有 限 公 司
発行所 株式会社 南江堂	〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目 42-6				編集 TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660
	https://www.nankodo.co.jp/				営業 TEL 03-3811-7239

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、(株)南江堂が保有します。

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

広告申込所: 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-24-6 本郷大原ビル 6 階 文京メディカル TEL 03-3817-8036